今日のイラスト 473　「 イラストで辿る萩往還㉛　小鯖峠 」　　古谷眞之助

イラストでたどる
萩往還
31 鯖山峠 郡境の碑

かつての吉敷郡と佐波郡との境、そして現在の山口市と防府市との境に建つのが鯖山の郡境の碑である。峠からは三田尻（防府）の街並とその奥に広がる瀬戸内海が見渡せる。かつてここには関所や茶屋もあったという。

郡境の碑の左側には、明治十八年に明治天皇が来山時にここで休憩されたことを示す明治天皇聖跡碑が建っている。まだ隧道は開通しておらず、馬での峠越えだった。その二年後に開通した佐波山隧道の設計者は、長州ファイブよりも先に訪欧した杉孫七郎の甥で山口市大内出身の植木平之充だった。また、工事を請け負ったのは、萩往還悴坂の鹿背隧道を開削した周防大島出身の福田亀吉で、彼はその後琵琶湖疎水工事にも携わっている。

文・イラスト＝古谷眞之助

萩往還をご案内する場合、萩から防府・三田尻方向に向かうケースが圧倒的に多い。その理由は、そちらの方が、どちらかというと楽であるからだろうと思っている。もちろん藩主は萩から江戸に向かい（ 参勤という ）、一年後に江戸から萩に帰って来る（ 下向という ）。そのため萩から歩こうと、防府から歩こうと、かつての参勤下向のルートを辿っていることには変わりない。それはともかく、鯖山峠まで来れば防府の街を眼下に見下ろすことができる。萩から歩いて来た人々も「やれやれ三田尻までもうすぐだ」という思いに浸ったことだろう。ここにはかつて、一息つける茶屋もあったというから、最後の休憩を取って、あとは最終目的地、三田尻の御茶屋まで軽快に飛ばしたに違いない。これ以降もはや登りはなく、峠を下れば、残り約 10km の平坦地なのだからである。

所属している「やまぐち萩往還語り部の会」では、毎年夏秋にこの峠周辺の草刈りを地域の人たちと共同で実施している。写真は今年 10 月の作業後の記念写真。草刈り機を持っている４名に片付け専任の ３ 名、合計 ７ 名でざっと １ 時間ばかりで刈り切った。メンバーの背後の石垣の上には、明治 18 年、明治天皇が山口に来られた際に峠で休憩されたことを示す大きな「明治天皇聖跡碑」が立っている。揮毫は毛利元昭公である。実はこの時佐波山隧道は貫通していたが、まだ貫通間もない頃で、隧道内の足場が悪かったため馬での峠越えとなったと言われている。萩往還には大小４つの峠があり、そのうち一番きつい板堂峠は 537m だが、ここは高々168m の峠で車でも通過できる。しかし、昭和 46 年（ 1971 ）には交通量の増加に対応するためもう １ 本の隧道が掘られ、上下 ４ 車線が開通するとこの道も忘れられてしまったようである。今やこの道を歩く人は萩往還を楽しむ人だけと言ってもよいだろう。（ 2021.10.27 記 ）